

## 入選

### コロナが教えてくれたこと

熊本県 水俣第一中学校

二年 小畑 百華

「コロナ」は、世界を大変な状況にした。大切な人と会えなくしたり、誰かを苦しめたり。そんな私たちにとって、「コロナ」はこの世にあってほしくないもの、すぐにでも消えてほしいもの。そんな存在だけれど、私はそれとは別に、ある大切なことを教えてくれたものでもあると思う。

コロナが世界にどンドン広がって、自分のすぐ近くのところまでやってきたときに、学校が休みになった。自分が好きだった、陸上クラブにも行けなくなった。外出も制限され、今まで、あたりまえのように過ごしていた毎日が一変した。

最初は、学校に行かずに、家で好きなことを思う存分やれるなど、どちらかというウキウキした気持ちでいた。でも、それは長くは続かず、日に日にコロナ以前の生活が恋しくなった。

そんなとき、ふと思ったことがあった。それは、自分がなにかに縛られた考えをしているということだ。物事が起こってから、「あのあたりまえの生活に戻りたい」と言い、前のことばかり引きずり、今の状況と比べていた。

そこによく使われるのが、「あたりまえ」という言葉だ。果たして、あたりまえの生活などあるのだろうか。あたりまえの生活は、誰かがこれだと決めたわけではない。ただ、自分がそれと思い込んでいるだけ。

このまま、失われた「あたりまえの生活」を引きずっていると、現状を受け止めることが出来ず、生きていることさえ、憂うつに感じてしまうだろう。どんな状況であったとしても、あたりまえの生活という概念に縛られずに、うしろではなく前を向いていなければならない。

そう考えた私は、毎日の日課を決めた。それは、幼稚園へ行く妹の弁当を作ることだ。あたりまえの生活なんてないのだから、前のことは忘れて、今、自分が希望を持って楽しめることを見つければいい。臨機応変に考えれば、どんなときでも楽しみは見つけられると思う。

妹に弁当を作ってあげると、喜んでくれて明日が楽しみになり、それが私の幸せになった。コロナがなかったら、感じられなかった幸せだろう。

コロナは、あたりまえの生活に縛られてはいけないということと、どんな状況であったとしても、違った視点から考えれば、目の前にある世界を変え、今まで感じることのなかった新しい喜びに出会えるということを教え、気づかせてくれた。「コロナ」がなかったら、きっとこんなことを考えなかつたらう。

今の世の中は、過去の「あたりまえの生活」を引きずりすぎだ。そういう概念を打ち壊せば、また新しいものへ迎えるだろう。

「コロナ」は、ただ悪いものではない。私自身に今までとは違った考え方や、生き方を気づかせ、教え、それを与えてくれた。